

第23回 CAOS 21の会 参加印象記



安藤眼科医院
院長 安藤 充利

CAOSの会には当時ファルマシアにいたMRの方に紹介されて参加して以来今年で12年のお付き合いになります。

毎年夏になると今年のCAOSではいったいどんな魅力的な眼科施設に連れていってもらえるのだろうと心わくわくしてきます。とても暑い中をガイドさんにつれられる団体旅行者の如く街中をてくてく歩き、朝から夜遅くまで手術見学、施設見学、症例検討会、懇親会、自己紹介をこなす過酷なツアーですが、普通では到底見学に行けないような全国の有名な眼科施設を訪れることができ、またCAOSの会のメンバーといわれる個性豊かな眼科の先生方とお知り合いになれる機会を与えてくださった細川社長はじめジャメックスの方々には心より感謝しております。

この印象記もいずれ私の番がまわってくると思っていたのですが、7月の中旬ごろジャメックスさんから「先生、実はお願いがあるのですが・・・」と言われたときに、ついにきたかと覚悟しました。

印象記のこともあり今回はいつもより入念に話を聞き、メモをとって会が終わったらなるべく早くこの印象記を書き上げようと思っておりましたが、自分の診療所に帰ったら、関東信越厚生局千葉事務所より個別指導の通知がきており、その準備に時間がかかってしまい、遅くなってしまったことをお詫び申し上げます。

8月1日（第一日目）

初日は白内障サージャンから神と崇められている永原先生の聖母眼科にお邪魔しました。白内障サージャンなら誰しも永原先生の手術ビデオを何度となく見て勉強した記憶があると思うのですが、その神様の手術を手術室で、しかもライブで見られるのは限定12人ということであり、ジャメックスさんにお話を伺った時に即座に参加させて下さいとお返事しました。

前日に坂出に入り、翌朝9時30分に聖母眼科に集合、永原先生のご挨拶があり、最近は何かがひどいため右眼は右手、左眼は左手で超音波をされるとの事でした。

10時より4班にわかれCatalys フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術を5眼、通常のPEA-IOLを7眼見学させていただきました。

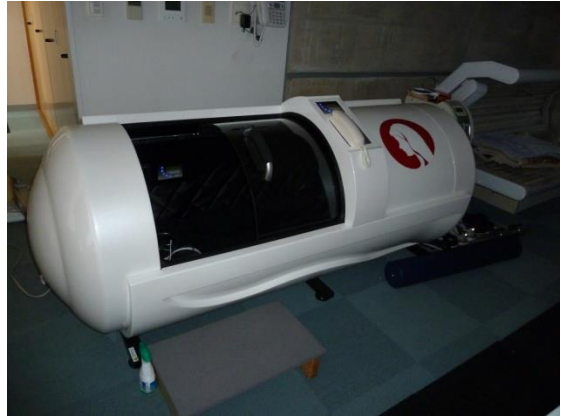


フェムトセカンドレーザーを用いる白内障手術は別室でレーザーを行い、その後手術室に移動し手術が始まるという少し手間のかかるものでした。

この時初めてフェムトセカンドレーザーによる白内障手術を見学させていただきましたが、私の想像とは少し違うものでした。レーザーにより細かく分割された水晶体を超音波で破砕吸引するだけなのかと思っていましたが、永原先生はチョッパーをいれて核を分割しているのではないですか。後でお聞きしたところによればレーザーでは切り取り線をいれているだけなのでそれを切る作業が必要なのだそうです。確かに正円のCCCが真ん中にできるのは魅力的ですが、それ以上に時間がかかりすぎるのが欠点ではないかと思いました。又、通常の超音波手術も私にとっては非常に勉強になりました。すべての動きに無駄がなく、スムーズに流れるようなテンポで核が破砕吸引される様はまさに圧巻でした。さらに左手の超音波も右手の時と同じリズムで手術されていることに大変驚きました。



その後、施設見学で印象的だったのは4階のトレーニングルームでした。その辺のスポーツジムに負けないくらい設備が整っており、永原先生のマッチョな体はここでつくられているのがわかりました。またその一角には酸素カプセルがあるではありませんか。永原先生曰く二日酔いの時に朝30分位ここにはいると頭も体もすっきりするとのことでした。ちなみに自宅にもこの酸素カプセルはあるそうです。



症例検討会では、やはりどうして今の手術より手間も時間もお金もかかるフエムトを始められたかというのが参加されたすべての先生方の疑問であったと思うのですが、それに対する永原先生の答えは、「フエイコチョップを考案した自分が核を分割するのを止めるとかっこいいのではないか」というものでした。永原先生かっこよすぎますよ・・・

懇親会まで時間があつたため、希望者によるミニまなべ眼科クリニック施設見学ツアーが行なわれました。

まなべ眼科クリニックにはCAOSの会として3年前にお邪魔しているのですが、私はちょうどその時参加しなかったもので、ぜひ訪問したいと思っていました。

写真では拝見したことがあるのですが、実物は写真よりも数段かっこよく、シンプルでとても素敵なクリニックでした。もし自分が新しいクリニックを造るとしたら一番参考にさせてほしいと思う施設でした。

また、患者数に比して手術件数が多く、ハードだけでなくソフトも非常に効率的で、体力的にも精神的にも衰えてきた自分にとって今後の指針になるであろう眼科医院を見学させていただいて大変感謝しております。

後でお話しを伺ったところ、究極の目標はひとりですべてのことができる眼科をめざしているとのことで、眞鍋先生ならひょっとしてやってしまうのではないかとさえ思いました。



懇親会は高松に場所を移し、J R ホテルクレメント高松で行われました。

恒例の自己紹介とともにいろいろな質問が永原先生に寄せられたのですが、その中で印象的だったのは、今後どういう人生を送りたいかという質問に対し、永原先生はハワイの海岸で犬をつれて散歩したいのだけれども肩に乗っかっているものが多くなかなか難しいとおっしゃっていました。さすがの永原先生も経営者としては御苦労があるのだなと実感しました。

8月2日（第二日目）

2日目は四国より福岡にわたり飯塚市の岡眼科クリニックにお邪魔しました。ここは麻生財務大臣の地元であり、麻生飯塚病院や有名な麻生御殿があるところです。

12時30分に集合。1時より3班に分かれ手術及び施設見学を行いました。

LenSx フェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術6例のうち2例を手術室にて見学。

白内障の核硬度があまり硬くなかったせいもあるのか、はたまたレーザーの違いなのか昨日とは違いチョッパーも使わず、また、ほとんど超音波も発振せず核の破砕吸引を終了してしまいました。

ただ、いかにCCCができており、超音波を使わずに核を破砕吸引できるからといって、これだけの見学者を前に正確にリズムよく手術される岡先生の技術に感動しました。



その後、施設見学を行いました。職員の方全員がインカムをつけているので今日のためにわざわざ大変だな〜と思っていたのですが、なんと通常業務の時も職員全員がインカムをつけて情報を共有しているとのことでした。又、私達の班を担当してくれたのは男性のORTの方だったのですが、懇親会の時に挨拶をしていただいて元岡眼科担当のMRでその後ORTの資格をとりどうしても岡眼科に就職したくて福岡に戻って来たと言ったときには驚き、この辺に岡眼科の人気の秘密があるのではないかと考えさせられました。

症例検討会では、岡眼科の多焦点眼内レンズの挿入比率が40%と非常に高く、その秘訣はどこにあるのか、私を初め参加されている先生方の最大の興味はそこにあっただと思うのですが、その明確な答えは得られませんでした。

しつこいくらいに静岡のS先生、筑波のT先生が、微に入り細に亙り聞いていただきました

たが、やはりこれといった特別な理由はないようでした。O R Tの方にお聞きしても特に多焦点を強く勧めているわけではないとのことでしたが、私が思うに多焦点眼内レンズに対する岡先生のお考えが職員全員に浸透しているからではないでしょうか。

あと症例検討会で参考になったことは、多焦点眼内レンズ術後の不満例の中に実用視力低下症例がけっこう隠れていることがあるので実用視力計が必須であるということ。(当院でもすぐ購入を決めました)

今までは不満例に対して患者さんとの治療の架け橋がなかったが、ドライアイの治療により共に良くしていこうという架け橋ができたことが大きいとおっしゃっていました。



検討会終了後、博多に場所を移し、水炊き「長野」で懇親会が行われました。この水炊きはおいしかったのですが、その後の2次会の「江藤家」が凄かった。(こちらを一次会にした方が良かったのではないかという意見が多かったです。)

ここでは、プレミアム焼酎の森伊蔵が一升瓶ででてきて、初めて森伊蔵をロックでいただきましたが、滑らかで芋独特の甘さが口の中でひろがりとても美味しかったです。

それ以来焼酎のロックが好きになり千葉に帰ってきてから何度か飲みましたがやはり森伊蔵のような芳醇な味わいを得ることはできませんでした。食事の方も、透きとおるような鳴子イカの刺身やウナギをいただき福岡の夜を満喫させていただきました。



8月3日（第三日目）

3日目は福岡より沖縄に飛び、安里眼科おもろまち駅前の施設見学です。移動のタクシーのなかで他の先生より数十億円かけた施設であることを聞きびっくりしましたが、実物をみてさらに驚きました。

手術室の床から屋上にあるバーベキューのテーブルまでどこをみてもすべて大理石でできしており、待合室、受付、診察室すべてにおいて最高の空間が確保されており、患者さんにとっては病院にいると思えない至福の時間が流れる眼科医院だと思いました。

その後、懇親会、2次会が行なわれたのですが、私は翌日所用があるためここで失礼させていただきます。その後の詳細は主催者印象記を御参考にして下さい。



まとめ

今回はフェムトセカンドレーザーを用いた白内障手術を2施設で、あと沖縄の超豪華眼科施設を見学させていただきました。フェムトセカンドレーザーについては参加された先生方の間でも、どなたが次にフェムトを買うのかという話題で盛り上がっていましたが、現在のところでは相当財力がある施設以外は難しいのではないかという印象でした。それはレーザー自体がかなり高額であるということ。又、ランニングコストがかなりかかること。そして一番は手間がかかるということではないでしょうか。例えば同じ手術台でレーザーとフェイコができるようになればかなり時間の短縮になると思います。ただ岡先生の「今はゼロタイムフェイコの入口にたったところで、今後それが花ひらいていく時代になる」というお言葉がすべてを表しているのかなと思いました。いずれにしても今後フェムトの時代になるのは間違いないという印象をもちました。

最後にいつも新しいテーマをかかげ、それに見合う施設を捜し、見学を了承してもらうことがどれだけ大変なことか。それを毎年、毎年完璧にこなす細川社長はじめジャメックスの社員の方々に感謝の念でいっぱいです。来年またどんな魅力的施設を見学させていただけるかを楽しみにして今回の印象記の最後とさせていただきます。